

家庭礼拝のための
聖書・牧会祈禱・メッセージ



【 聖 書 】 マタイによる福音書18章18節～20節

18

¹⁸ はっきり言うておく。あなたがたが地上でつなぐことは、天上でもつなぐれ、あなたがたが地上で解くことは、天上でも解かれる。¹⁹ また、はっきり言うておくが、どんな願い事であれ、あなたがたのうち二人が地上で心をつなぐにして求めるなら、わたしの天の父はそれをかなえてくださる。²⁰ 二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである。」

【牧会祈禱】

命の源である神様。

この礼拝を守らせてくださることを感謝いたします。私たちは食べ物だけで生きられるわけではありません。また、人との関わりだけでも足りません。神様が愛してくださり、御言葉で励ましてくださらなければ、力尽きてしまいます。どうか、私たちを祝福し、根底から支えていてください。それぞれの場所でこの時を耐えている友たちをお守りください。

多くの場所で緊急事態宣言は解除されましたが、各自に判断が委ねられているこの状況は、差別や混乱、対立を生む可能性があります。立場や優先順位が違って、この苦しい状況に立たされていることはみんな同じです。どうか思いやりと良心をもって、共に生きる方法を考えることができますように。神様、導いてください。

私たちは弱さをもつ存在です。今の状況は、その弱さをいっそう明らかにします。神様の希望があると思っても、私たちは疲れ、苛立ち、暗い思いに引きずられてしまいます。あなたに委ねることのできない私をお許しください。神様は私たちを決して見捨てない方です。この信仰を貫かせてください。

入院中、療養中の友を支えていてください。心身の調子を崩している友を勇気づけてください。今週、働きに出る友の疲れを癒やし、あなたの希望を証する存在として用いてください。新しい一週間、イエス様のお姿に似た生き方ができますように。

このお祈りを主イエス・キリストの御名によって御前におささげいたします。アーメン。

以前、私が研修を受けたアメリカの日系教会には幼稚園が併設されていました。立ち上げ当初、園児は2人しかいなかったそうです。スタッフは懸命に広報活動を行いましたが、翌年新しく入園したのはたった4人。園長でもあった牧師は知り合いの牧師にこう嘆きました。「去年の新入園児は2人。今年は4人しかいない」。すると話を聞いていた牧師がこう言いました。「すごい！2倍じゃないか」。これは人数が増えたことを大げさに褒めただけではなくて、キリスト教保育を去年の2倍の保護者が望み、実際に行うことができる、その喜びの言葉だったのでしょ。

今日の聖書には、「二人または三人がわたしの名によって集まる」という言葉が出てきます。ユダヤ教の規則において、裁判で有罪判決とするには二人の証言、できたら三人の証言が必要と定められています。しかし、ここでイエス様は誰かに有罪判決を下すために集まるのだ、とは言いません。むしろ、赦すため、求めるために集まる。教会とはそのような群だと言うのです。

「わたしの名によって」とは、二つの意味があるでしょう。ひとつは、イエス様から招待されたということです。私たちが何かの集まりに参加する場合、主催者がいるはずで、その人なしには、集いがあることすら分かりません。イエス様が招待してくださったからこそ、私たちは集い、教会となります。

もうひとつは、その集いの土台がイエス様だということです。この地にはイエス様の名によって立てられた教会、学校、幼稚園、施設などがあります。それらはこの世にありながら、この世に属していません。イエス様を土台とし、間違えることはあつた

としても、必ずイエス様の愛と赦しに立ち返る集いなのです。

「つなぐ」と「解く」が対比として出てくる場合、これらは「有罪と宣告すること」と「無罪放免にすること」として読むことができます。イエス様から招かれ、イエス様を土台とする二三人が人を許すならば、それは天で行ったことと同じくらい、大きな価値があるのだとイエス様は言います。イエス様を中心として生きることは、たとえ世の誰からも注目されなくても、この地で賞賛を受けないどころか認められなくても、神様は喜んでいてくださるのです。「私が天で行うことを、あなたが地で行ってくれた」と神様がおっしゃってくださいます。

二三人が地上で心を合わせて求めるならば、天の父すら心動かしてくださるとイエス様は言います。神様は二三人の発する声すら聞き漏らさないほど、小さな群を大切にしてくださいます。しかしそれは、大きな教会や集まりを軽んじているわけではないのです。イエス様は教会のために死んだのではありません。教会となる一人ひとりを生かすために命をささげてくださったのです。二三人という小さな単位は、神様にとってそれほど一人が貴重で、親密だという表現なのでしょう。たとえ二十人、三十人の教会であっても、二百人、三百人の教会であっても、そこにいるのは「私」という主に愛され救われたひとりの存在なのです。

「わたしもその中にいる」とイエス様は言います。私たちが今ささげている家庭礼拝は一人、または二人の集いでしょう。けれども、主が招き、主を中心に生きようとするあなたのところこそ、ご自分のいるところだとイエス様が言ってくださるのです。